

トライアスロン 新世紀

TRIATHLON NEW WAVE

トライアスロンの歴史を読み解き、新時代へ導く



2012年(平成24年)4月13日 NO.2



公益社団法人 日本トライアスロン連合(JTU)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-9-10青山キングビル3F

電話:03-5469-5401 FAX:03-5469-5403 Email:jtuoffice@jtu.or.jp

<http://www.jtu.or.jp>

発行

オリンピック代表に細田

2012年のシーズンは、4月7日(土)に千葉県館山市で開催されたASTCトライアスロンアジア選手権(2012/館山)で開幕した。当日は、季節外れの寒波が到来し、気温12.4度、水温15度と春とは思えないコンディションとなった。

注目されたのは、男子の優勝の行方だ。ITUのオリンピック出場規定では、5大陸別の選手権大会での優勝者の国に、出場枠が与えられる。さらに、JTUのオリンピック代表選手選考基準は、男子の場合アジア選手権に優勝すれば代表に内定することとなっていた。

オリンピック出場国別枠では、日本は2枠を確保しており、このまま5月末を迎えれば、ランキングの上位2名が代表となるのが順当なところだ。しかし、どの選手も実力で代表に名乗りを上げ、オリンピック出場を果たしたいところ。したがって、このレースはランキングトップの細田雄一(グリーンタワー・フェリック・稲毛インター)、続く山本良介(トヨタ車体)、田山寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)ほか、どの選手にとっても一発勝負をかけるレースとなった。特に、2007年のITUワールドカップエイラート大会に日本選手として初めて優勝。2008年の北京オリンピックでは48位に沈んではいるが、現在ランキングで3番点につける田山にとっては、起死回生をかけるレース。

西風が強く吹く北条海岸を午後1時45分にスタート。「絶対に結果を出す」と言っていた田山がスイム1周目をリードする。スイムフィニッシュは中国のシ・ゼンに譲ったものの、田山、山本、細田は韓国の伸び盛りでやはりオリンピック出場をねらうホ・ミンホら5名でバイクに出た。

バイクではシがすぐに遅れ、山本、田山、細田、ホの4名が先頭交代をくり返しながらか40kmを終え、ラン勝負に入った。

ランには、細田、ホ、山本、田山の順で飛び出す。しかしすぐにホが遅れだし、勝負の行方は3名に絞られた。ラン最終週をリードしていた田山は、フィニッシュ前のビクトリーロード直前までトップ。しかし、最後の直線で細田が先頭に出ると、1秒差の1時間39分31秒で優勝した。3位は山本。

レース後細田は、「ランの途中で、くじけてしまいそうになる自分が現れた。その度に、北京オリンピックで代表になれなかった悔しさと、この4年間の出来事、サポートしてくれた人たちを思い出して前へ出た」と、気持ちの上で勝ったことを強調した。

田山は、「これが結果です。ここで代表にはなれませんでした。あと2カ月、できるだけポイントを積み重ねて、代表枠に追いつきたいと思います」と語った。



スイムをリードする田山



日本選手がバイクをコントロール



田山はランでリードしていた



僅差で細田の勝利

メダルに近づく女子

女子は、このレースに勝っても代表に内定しない。しかし、すでにオリンピック国別代表枠の三つがほぼ確実で、昨年のロンドンの活躍で代表を内定した上田藍（シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター）のほかの2枠に誰が入るか、選手たちは熾烈な争いを繰り広げている。つまり、足立真梨子（トーシムパートナーズ・チームケンズ）、庭田清美（アシックス・ザバス）、井出樹里（トーシムパートナーズ・チームケンズ）、崎本智子（枚方スイミングスクール）の4名がこの2席を奪うために、しのぎを削っているのだ。

女子のレースは午前11時20分スタート。韓国のジョ・アルム、ホン・ダンビがトップを奪うと、3番手に足立がつき、その後を井出、崎本、佐藤優香（トーシムパートナーズ・チームケンズ）、庭田が追う展開。バイクでは、崎本、井出、佐藤、庭田、足立に3名の韓国選手を加えた第1集団が終始リード。その後を、3名のパックで上田藍（シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター）が追いかける展開となった。

ランでは、上記日本選手5名がすぐさま抜け出すが、中盤足立が前に出ると、そのままリードを広げて1時間48分47秒のタイムで優勝した。足立は、「代表が内定するわけではないが、来週からのワールド・トライアスロン・シリーズ、シドニー大会、サンディエゴ大会、マドリッド大会で3位入賞する自信がついた」と、今後の代表争いに一歩リードしたところを見せた。



足立は2010年アジア大会以来の優勝

2位は「走れるようになった」という佐藤。3位は、バイクで約2分の差を追い上げた上田が入った。上田は、「34分7秒と33分代目前のタイムで走れたことは、オリンピックでの展開に自信がもてる」と、喜んだ。

同日行われた、U-23女子は高橋侑子（法政大学）、男子は石塚祥吾（日本食研）、ジュニアは松本文佳（チームケンズ京都）、男子は杉原賞紀（チームケンズ京都）が優勝。また、8日（日）に行われたチームリレーも日本チームが優勝し、この大会の金メダルを独占する格好となった。



遠浅の海岸を走ってスタート



上田はスイムの遅れをバイクで追いつける



ランをリードする4名の日本選手

BMW が新スポンサーに

今後日本代表は、4月14日（土）シドニー、5月12日（土）・13日（日）サンディエゴ、5月26日（土）・7日（日）マドリッドと三つのITU世界トライアスロンシリーズを戦い、代表が決定する。女子は3位以内、男子は8位以内で代表に内定するだけに、どの選手にとっても正念場となる。特に男子は、多くの選手が少しでも高いポイントを取って、国別出場枠を3枠にしたいところだ。



BMWを前に上田と細田

週明けの4月9日（月）には、新たにJTUのオフィシャルスポンサーとなったビー・エム・ダブリュー株式会社の「公益社団法人日本トライアスロン連合（JTU）へのスポンサー発表」が東京・丸の内で行われた。

出席したのは、上田、細田の日本代表内定選手と飯島健二郎日本代表監督。席上、ローランド・クルーガー代表取締役社長から、「2012年の1年間の間、優秀な成績を収めた選手に、1年間BMWの車を無償貸与します」と発表があった。

代表選手の大きなモチベーションのアップを期待したい。



4月8日に開催されたASTICアジア選手権エイジの部。気象状況によりデュアスロンへ変更となった